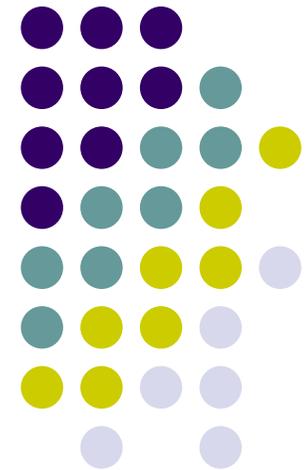


RIETI 政策シンポジウム

国際経済ショックと 国際企業の課題

若杉 隆平

RIETI 研究主幹
京都大学経済研究所教授
慶應義塾大学経済学部客員教授



金融危機後の不況： 非対称な経済成長



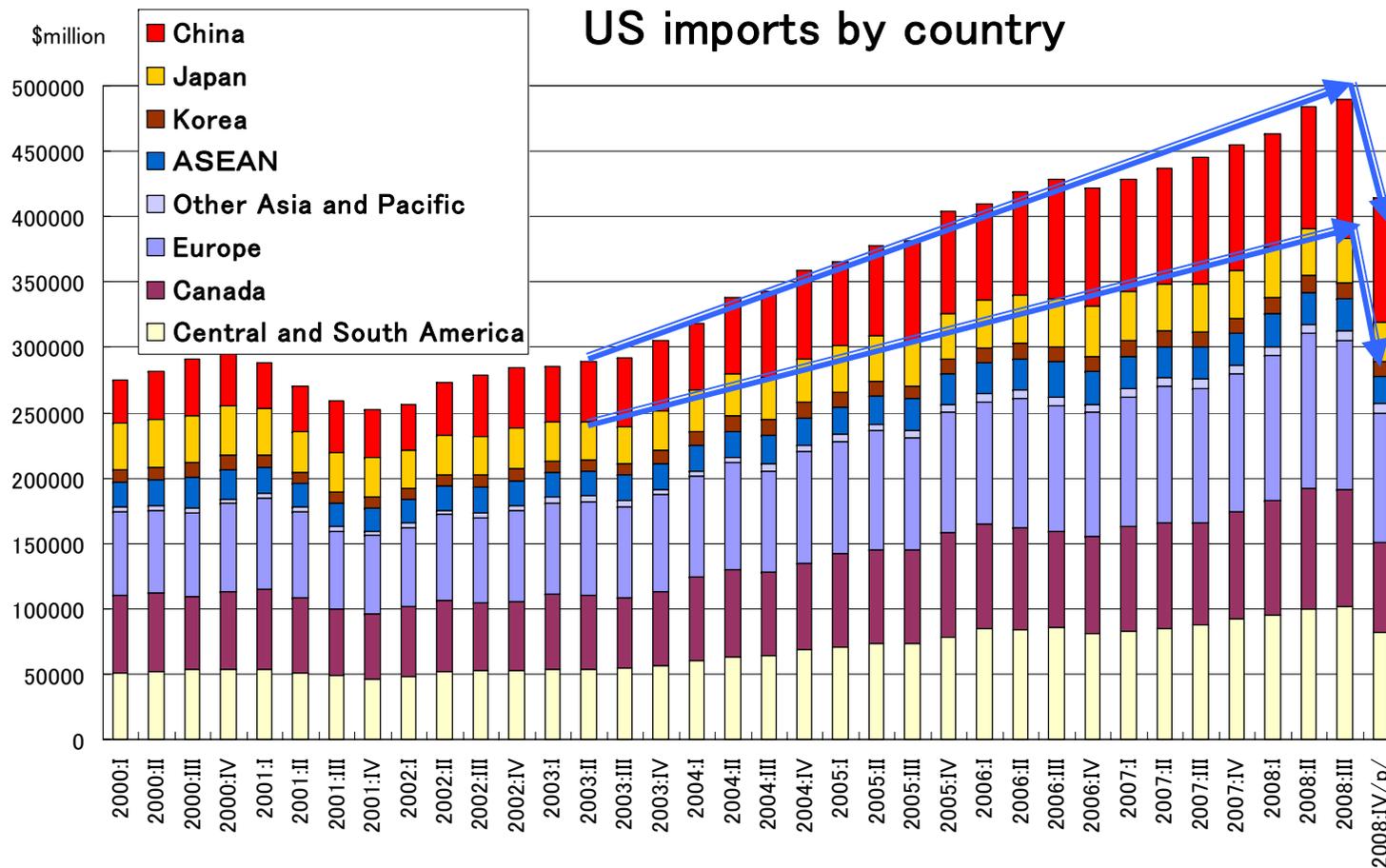
- 世界全体に波及
- 日本・NIES4の大幅なマイナス成長
- 中国・インドはプラス成長を持続

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
World	4.5	5.1	5.2	3.2	-1.3	1.9	4.3
U.S.	2.9	2.8	2.0	1.1	-2.8	0.0	3.5
EU	2.2	3.4	3.1	1.1	-4.0	-0.3	1.7
United Kingdom	2.1	2.8	3.0	0.7	-4.1	-0.4	2.1
Japan	1.9	2.0	2.4	-0.6	-6.2	0.5	2.2
China	10.4	11.6	13.0	9.0	6.5	7.5	10.2
NIES-4	4.7	5.6	5.7	1.6	-5.6	0.8	4.4
ASEAN-5	5.5	5.7	6.3	4.9	0.0	2.3	4.3
India	9.2	9.8	9.3	7.3	4.5	5.6	6.9

世界貿易の減少： 米国の輸入需要の急減



- 2001年以降の輸入需要の拡大期⇒2008年の輸入急減
- 日本・東アジア諸国⇒中国からの輸入拡大



金融危機後の米国の需要減少： 非対称な輸入需要減



- 自動車・部品、資本財の輸入の顕著な減少
- 日本・カナダからの輸入減少

	2008:I	2008:II	2008:III	2008:IV	2009:I/p/
All countries	0.12	0.15	0.13	-0.09	-0.30
Europe	0.13	0.14	0.10	-0.07	-0.27
Canada	0.12	0.15	0.16	-0.14	-0.38
Mexico	0.08	0.10	0.04	-0.11	-0.26
China	0.02	0.07	0.10	0.01	-0.10
Japan	0.03	0.03	-0.07	-0.16	-0.41
Petroleum and products	0.60	0.60	0.59	-0.15	-0.54
Foods, feeds, and beverages	0.08	0.12	0.10	0.06	-0.05
Industrial supplies and materials	0.34	0.35	0.37	-0.10	-0.45
Capital goods, except automotive	0.05	0.07	0.03	-0.06	-0.20
Automotive vehicles, parts, and eng	0.00	-0.02	-0.12	-0.24	-0.49
Consumer goods (nonfood)	0.01	0.05	0.05	-0.06	-0.13

金融危機後の世界貿易ショック

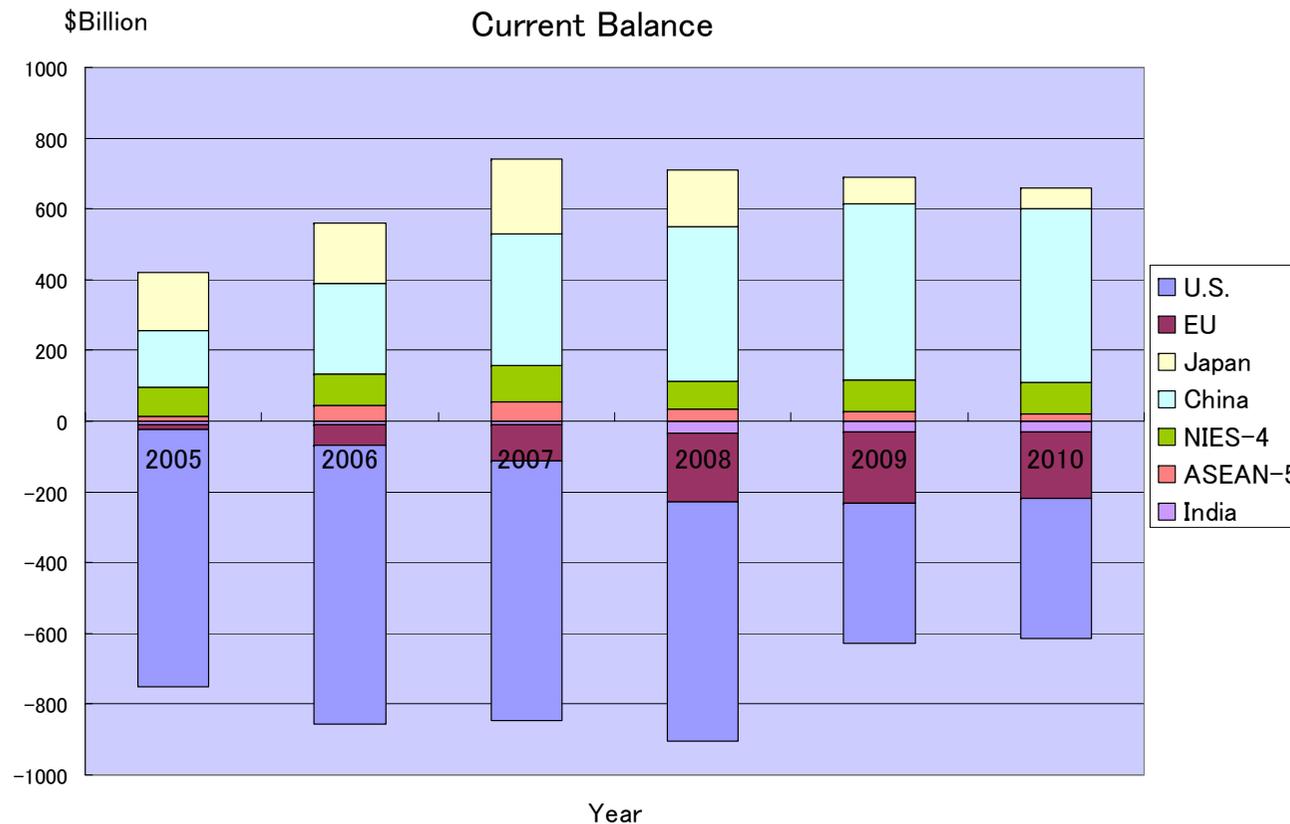


- 金融危機前のバブル・輸入増大からの急変
- Global sourcingによる世界への連鎖・波及
- 国による影響の非対称性

マクロバランス： 拡大する貯蓄・投資インバランスの偏在



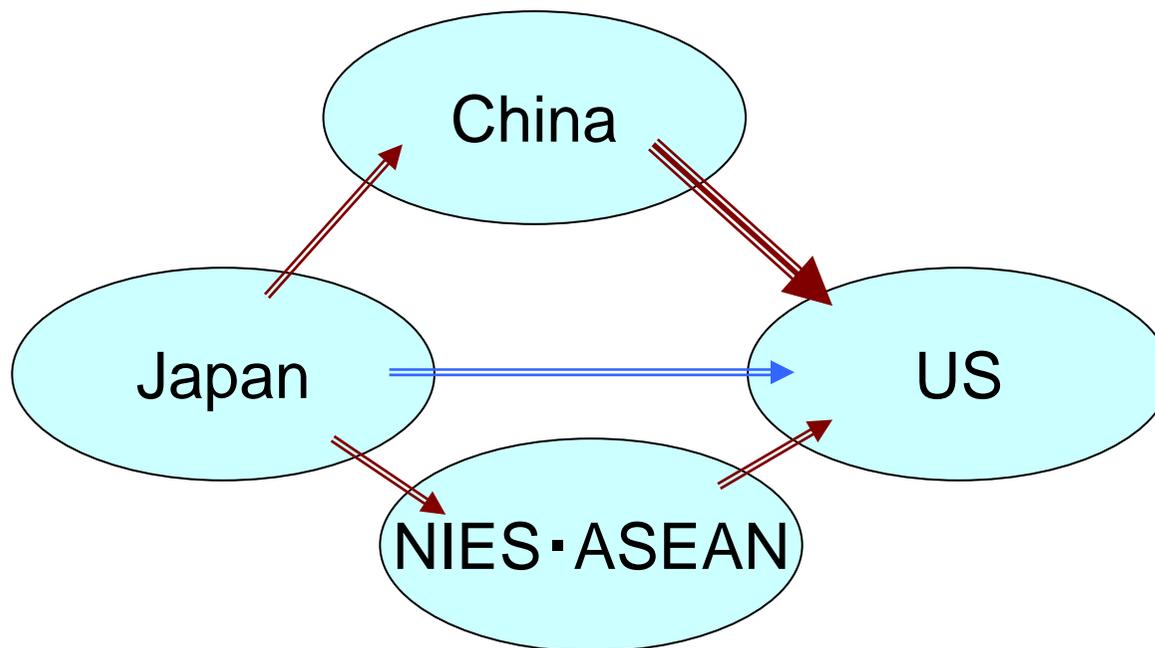
- 米国の経常収支赤字、中国の経常収支黒字の増大
- 日本の貿易収支黒字の減少



進展するグローバルな調達と生産



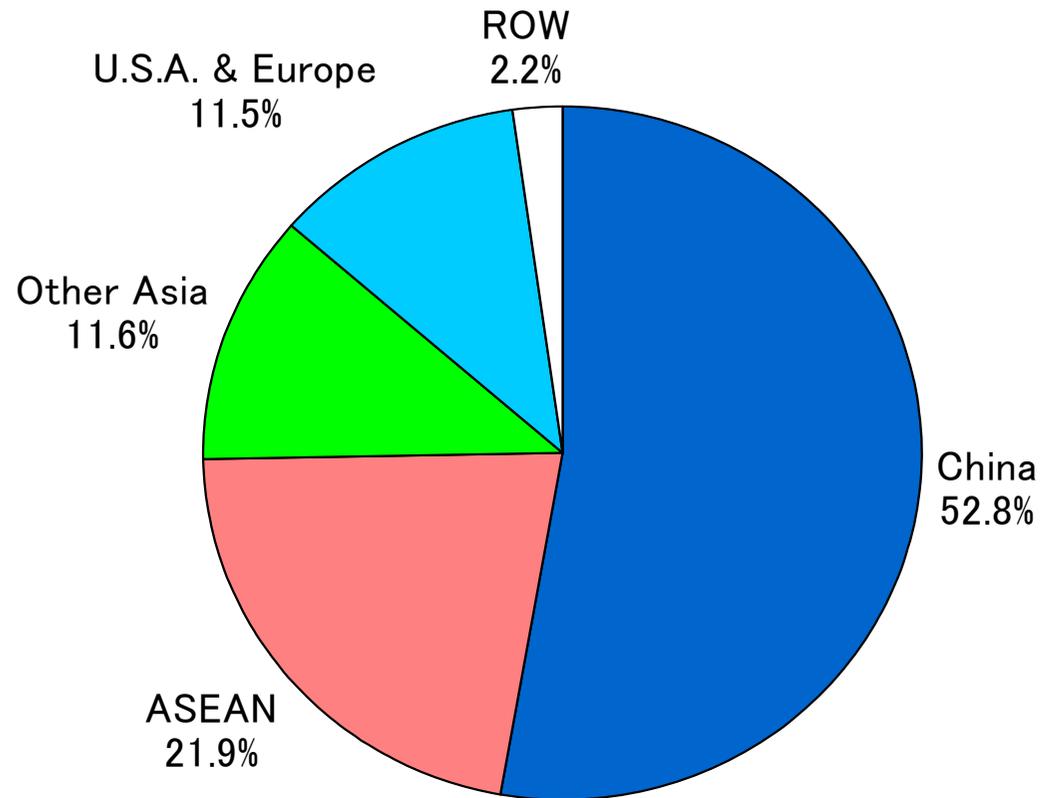
- 米・中(+東アジア)・日の3角貿易
 - A decline of Japanese share in US import (－)
 - A rise of Chinese share in US import (+)
 - A rise of Japanese share in Chinese export and import (+)



世界需要と 日本の国際企業の市場戦略



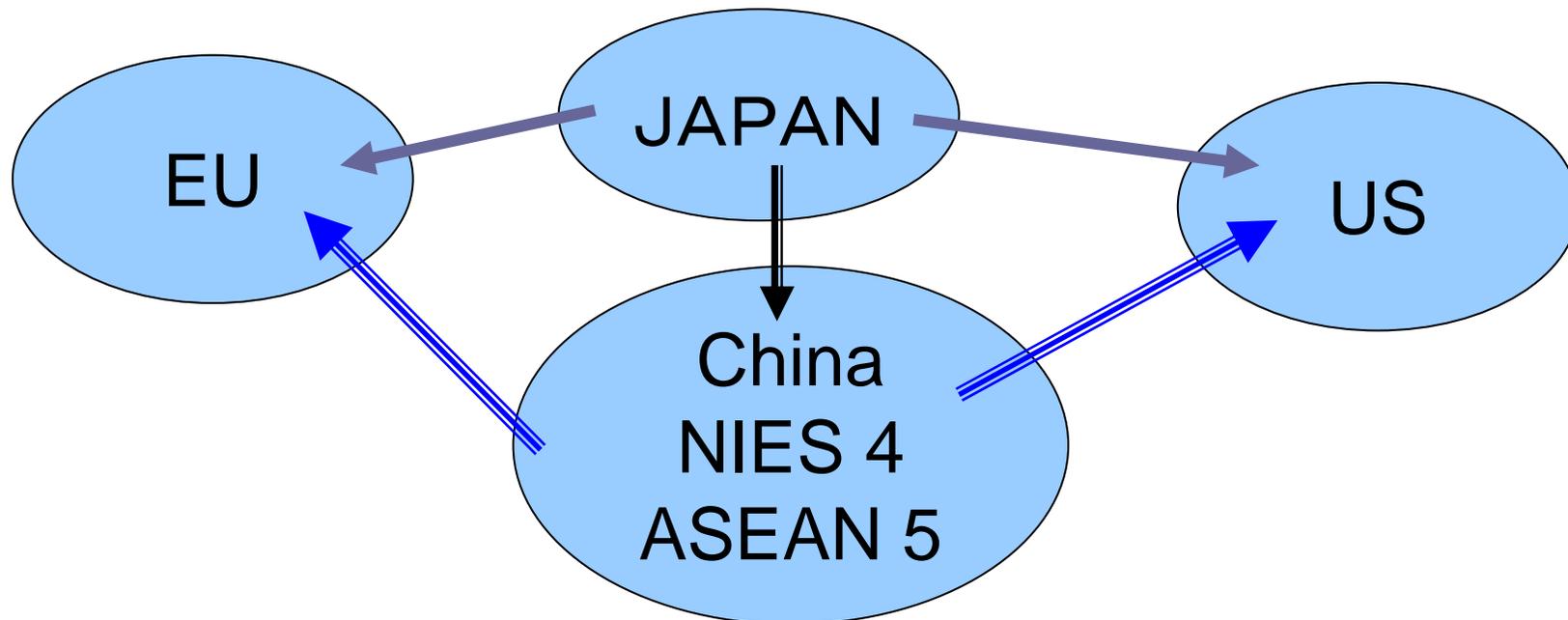
- Global sourcing and location, in China



金融危機後の貿易ショック： 増幅の要因



- 米国・EUを最終需要先とする東アジアの重層的「生産」ネットワークの拡大
- 高付加価値財への「選択と集中」



マクロ経済と日本企業の輸出



- 高所得国・高付加価値製品への需要先の選択と集中
- 日本企業の輸出のみでなく東アジアでの生産の米国輸入需要への依存
- 金融ショックの影響を受けやすい貿易構造への変化

マクロ経済変化と日本企業の輸出： 「選択と集中」



- 1990年以降のマクロ経済変化の輸出構造への効果
(Extensive and intensive margin)

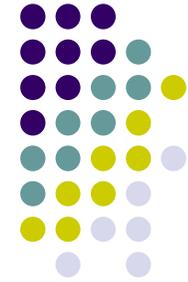
$$\ln TV_{i,t} = \ln N_{i,t} + \ln \left(\frac{TV_{i,t}}{N_{i,t}} \right) \quad \begin{array}{l} N: \text{製品種類数} \\ TV/N: \text{平均単価} \end{array}$$

$$\ln TV_{i,t} = \alpha_0 + \alpha_1 \ln(GDP_{Japan}) + \alpha_2 \ln(GDP_i) + \alpha_3 \ln(Ex) + \alpha_4 WTO \text{ dummy} + \varepsilon$$

$$\ln N_{i,t} = \beta_0 + \beta_1 \ln(GDP_{Japan}) + \beta_2 \ln(GDP_i) + \beta_3 \ln(Ex) + \beta_4 WTO \text{ dummy} + \varepsilon$$

$$\ln \left(\frac{TV_{i,t}}{N_{i,t}} \right) = \gamma_0 + \gamma_1 \ln(GDP_{Japan}) + \gamma_2 \ln(GDP_i) + \gamma_3 \ln(Ex) + \gamma_4 WTO \text{ dummy} + \varepsilon$$

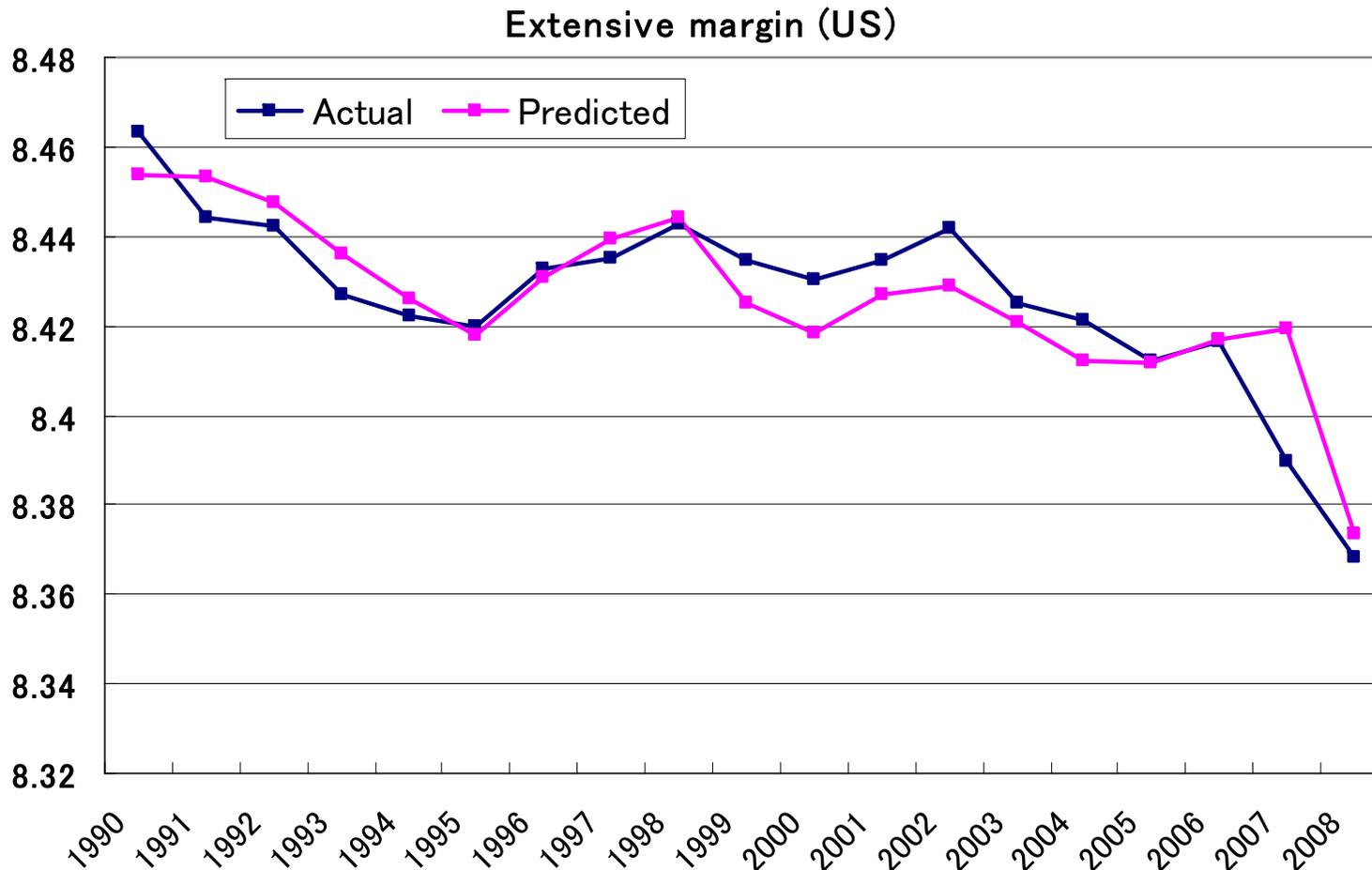
米国の経済成長と日本の輸出変化： 輸出品目の減少・付加価値の増加



	輸出額	品目数	平均単価
米国GDP	0.645	-0.069	0.714
日本GDP	0.340	0.109	0.230
為替レート(¥/\$)	0.867	0.199	0.667

Estimated by Wakasugi and Iida (2009)

対米輸出品目数の減少 (Extensive margin)

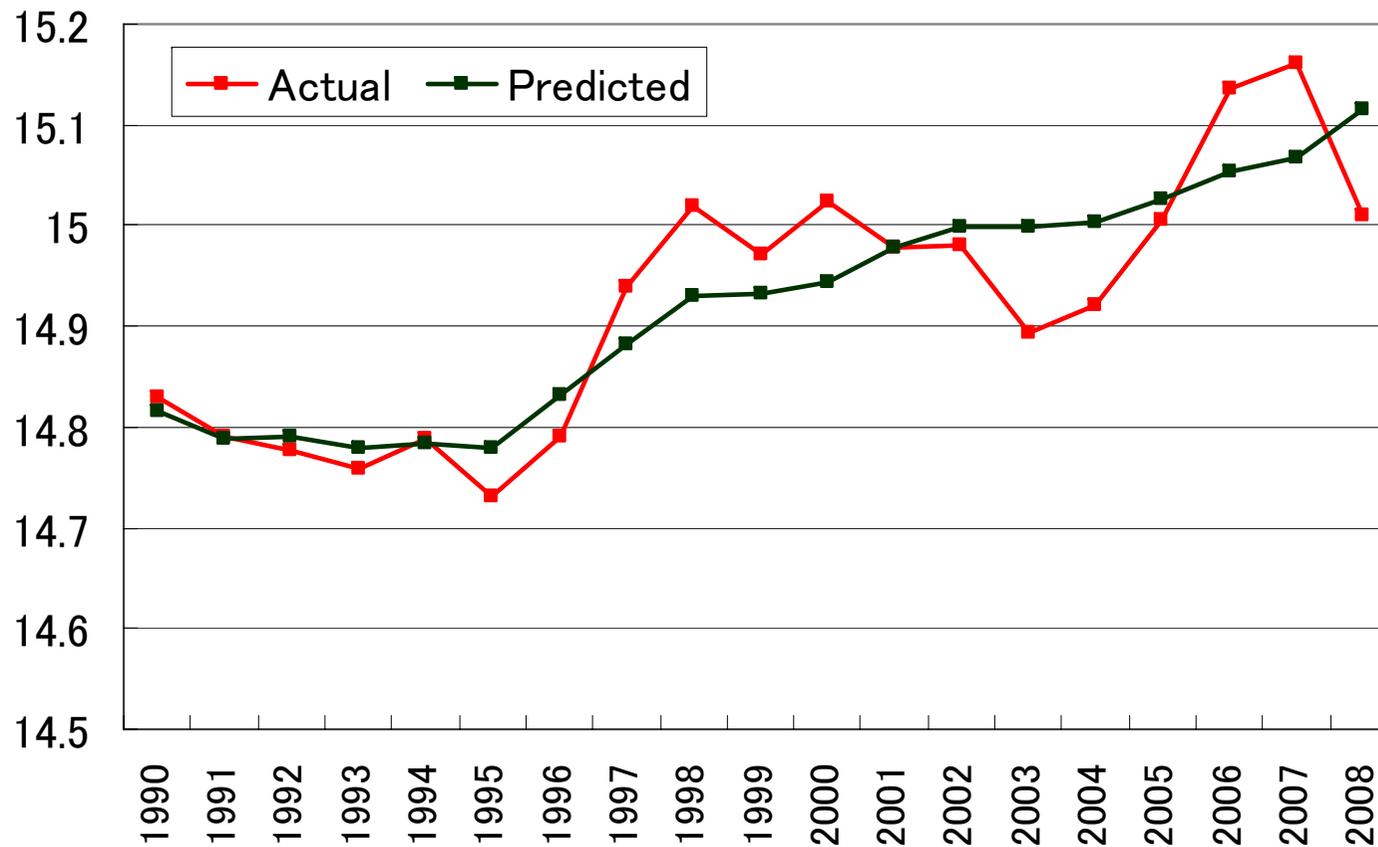


Estimated by Wakasugi and Iida (2009)

平均単価の増加⇒減少 (Intensive margin)



Intensive margin (US)



Estimated by Wakasugi and Iida (2009)

中国の経済成長と日本の輸出



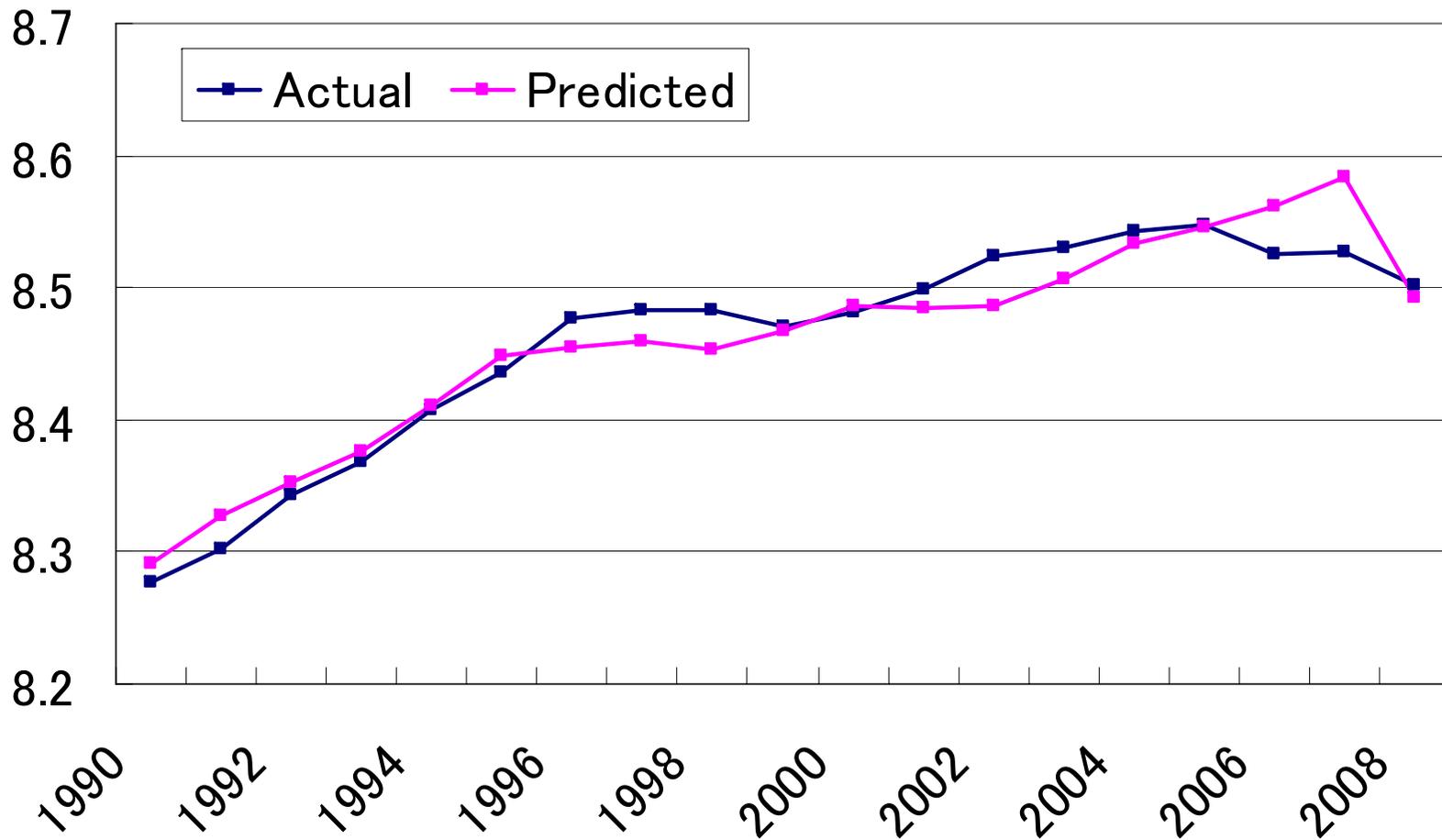
	輸出額	品目数	平均単価
中国GDP	0.848	0.092	0.755
日本GDP	0.017	0.361	-0.344
為替レート(¥/\$)	-0.634	0.245	-0.879
WTOダミー	0.403	0.006	0.396

Estimated by Wakasugi and Iida (2009)

輸出品目数の増加 (Extensive margin)



Extensive margin (China)

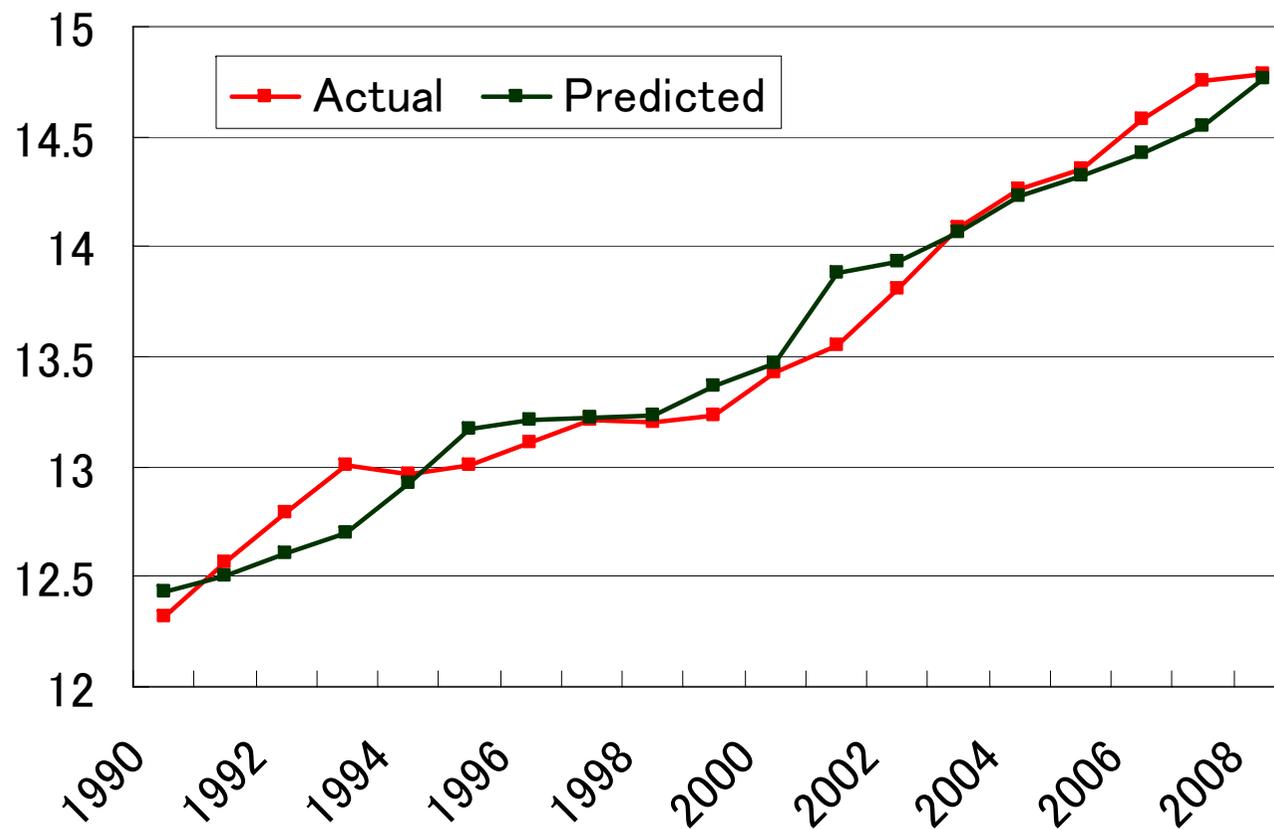


Estimated by Wakasugi and Iida (2009)

平均単価の増加 (Intensive margin)



Intensive margin (China)



Estimated by Wakasugi and Iida (2009)

日本企業の輸出構造の変化



- 選択と集中
- 対米輸出は高付加価値財へ絞り込み
- 高所得層の需要への対応

- Global sourcing and location
- 対中国へは中間財、資本財の拡大、財の範囲の拡大

金融危機後の新パラダイム



- 世界需要構造の変化
- グローバル化する生産モードへの変化
- 世界市場の質的变化
- 企業戦略のシフト

世界需要の構造変化



- 1つのブラックホール(高所得国)から複数の需要吸収国のシステムへ

高所得国の市場拡大 中所得国の人口増加



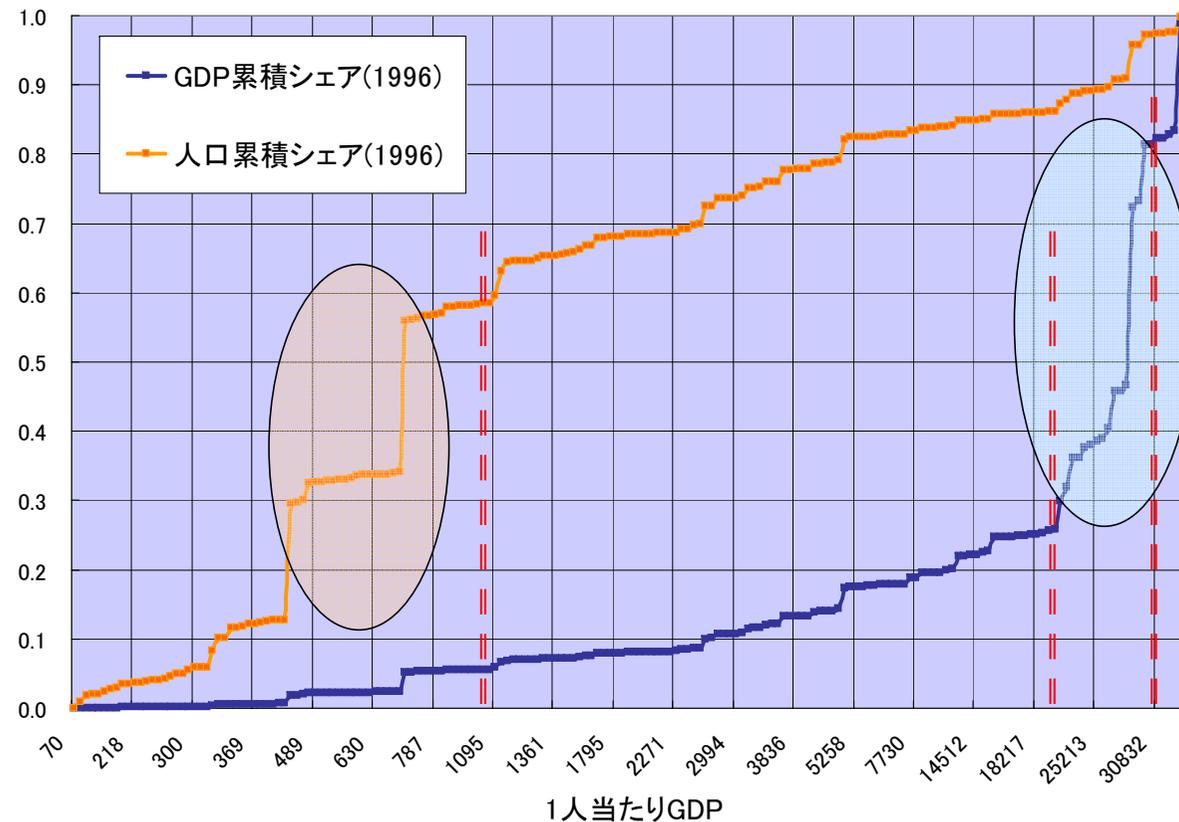
1人当たりGDP	GDP規模		人口	
	1996	2006	1996	2006
$0 \leq 1,000$	0.06	0.03	0.58	0.37
$1,000 \leq 2,000$	0.02	0.02	0.10	0.08
$2,000 \leq 5,000$	0.06	0.08	0.11	0.28
$5,000 \leq 10,000$	0.05	0.11	0.05	0.12
$10,000 \leq 20,000$	0.06	0.04	0.02	0.02
$20,000 \leq 30,000$	0.56	0.04	0.11	0.01
$30,000 \leq$	0.19	0.68	0.03	0.13

1996



	GDP規模	人口
1人あたりGDP	1996	1996
$0 \leq 1,000$	0.06	0.58
$1,000 \leq 2,000$	0.02	0.10
$2,000 \leq 5,000$	0.06	0.11
$5,000 \leq 10,000$	0.05	0.05
$10,000 \leq 20,000$	0.06	0.02
$20,000 \leq 30,000$	0.56	0.11
$30,000 \leq$	0.19	0.03

シェア 1人あたりGDPと人口・所得の分布(1996)

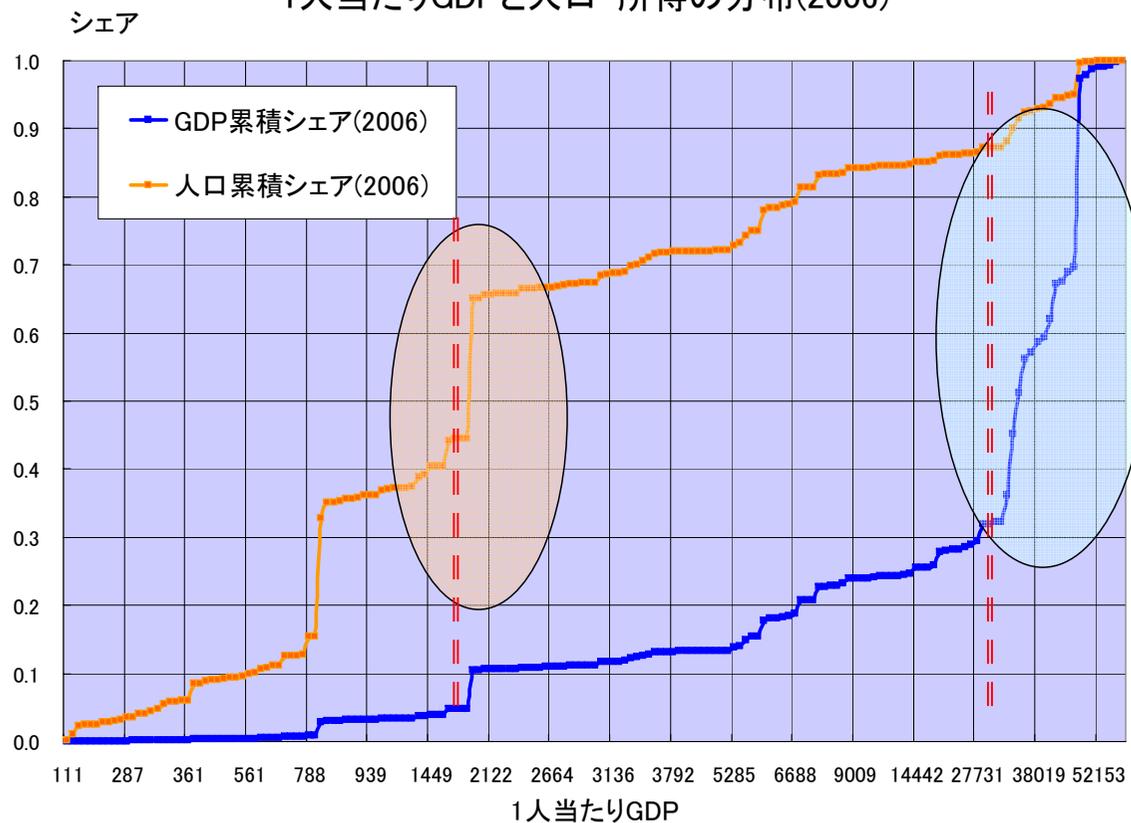


2006



	GDP規模	人口
1人当たりGDP	2006	2006
$0 \leq 1,000$	0.03	0.37
$1,000 \leq 2,000$	0.02	0.08
$2,000 \leq 5,000$	0.08	0.28
$5,000 \leq 10,000$	0.11	0.12
$10,000 \leq 20,000$	0.04	0.02
$20,000 \leq 30,000$	0.04	0.01
$30,000 \leq$	0.68	0.13

1人当たりGDPと人口・所得の分布(2006)

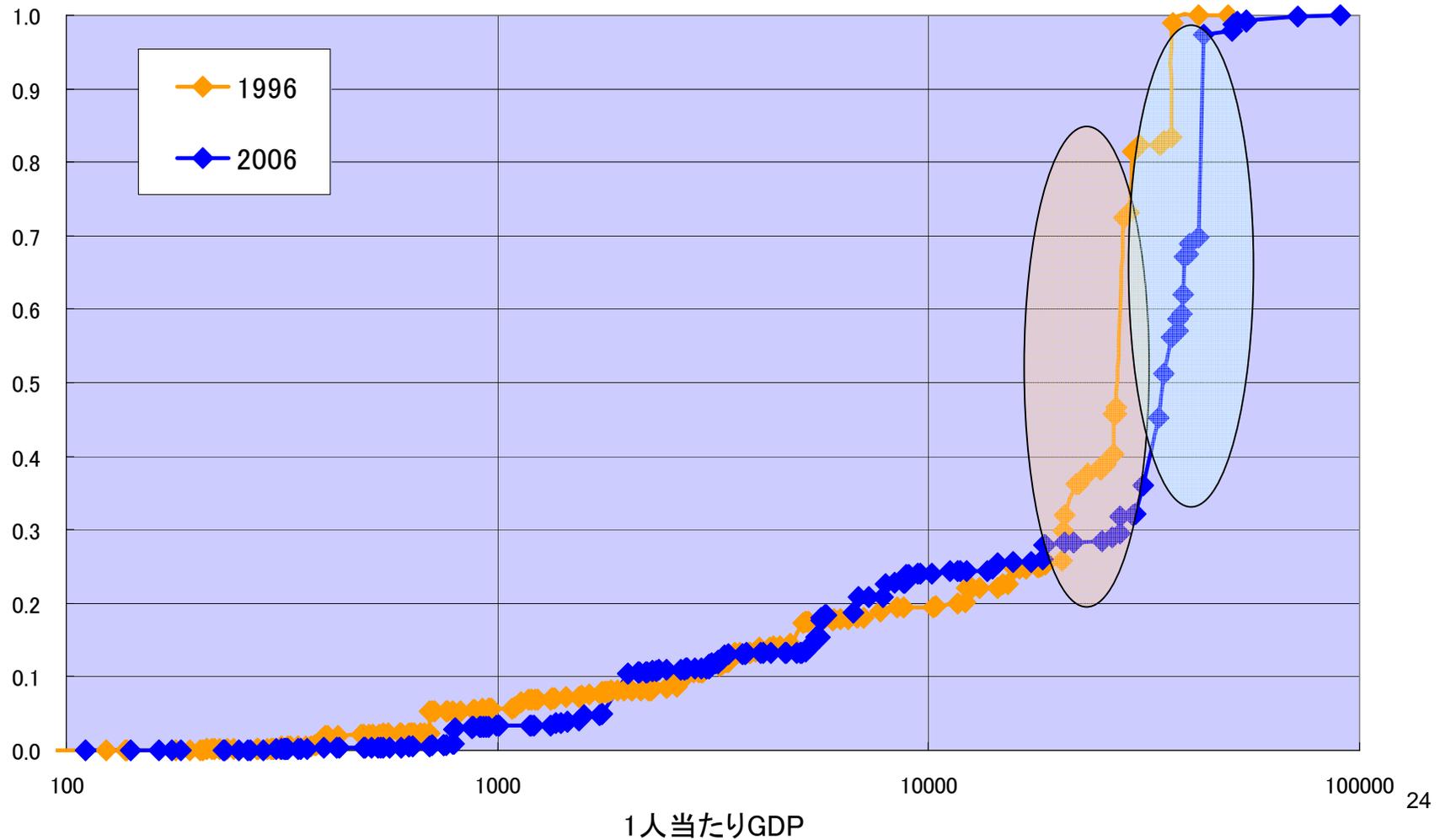


高所得国の市場拡大



所得分布

1人当たりGDPと所得分布

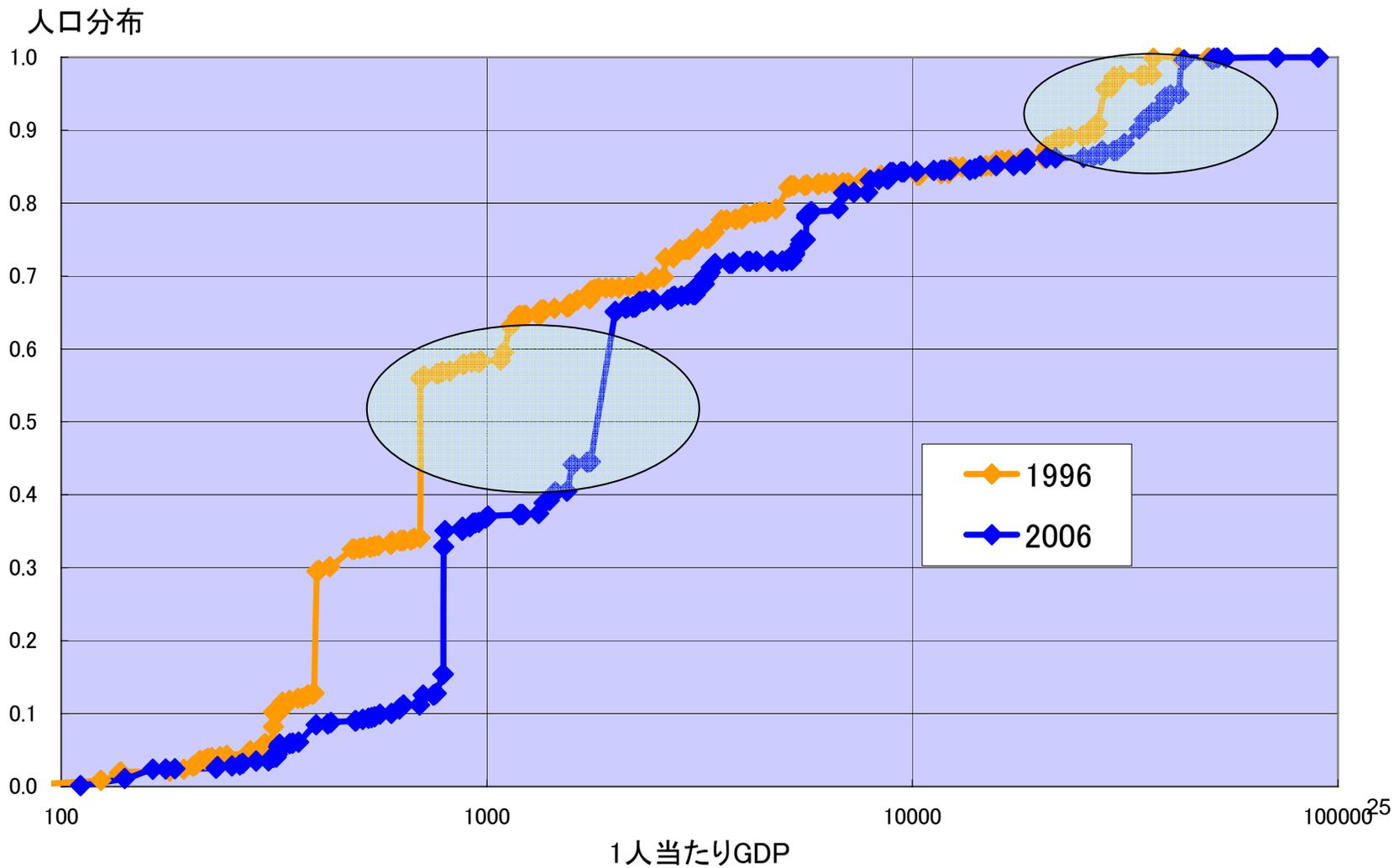


2タイプ市場

「 $\$2,000 \leq \$5,000$ 」「 $\$30,000 \leq$ 」



1人当たりGDPと人口分布

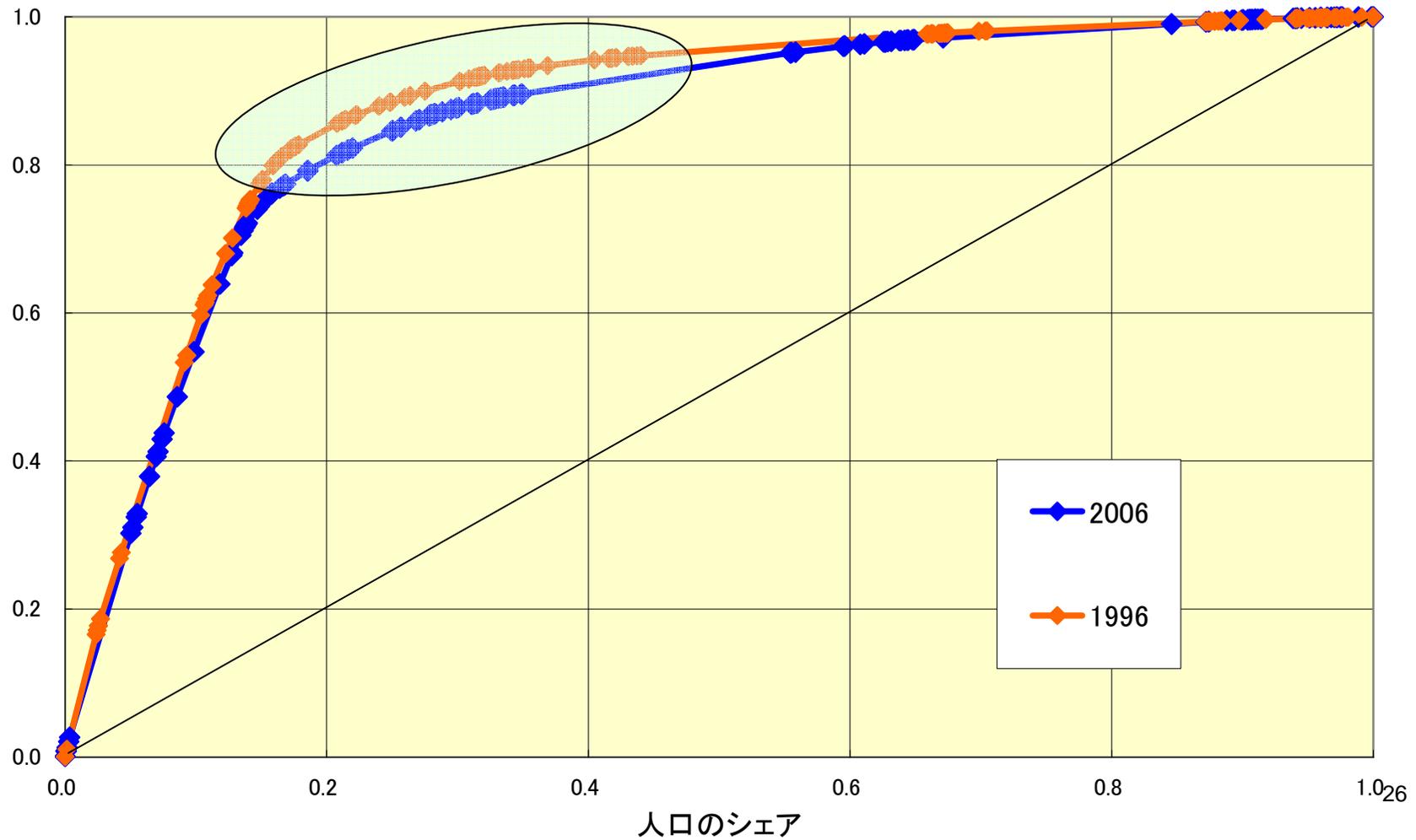


所得中位国の所得の平準化

人口と所得の分布



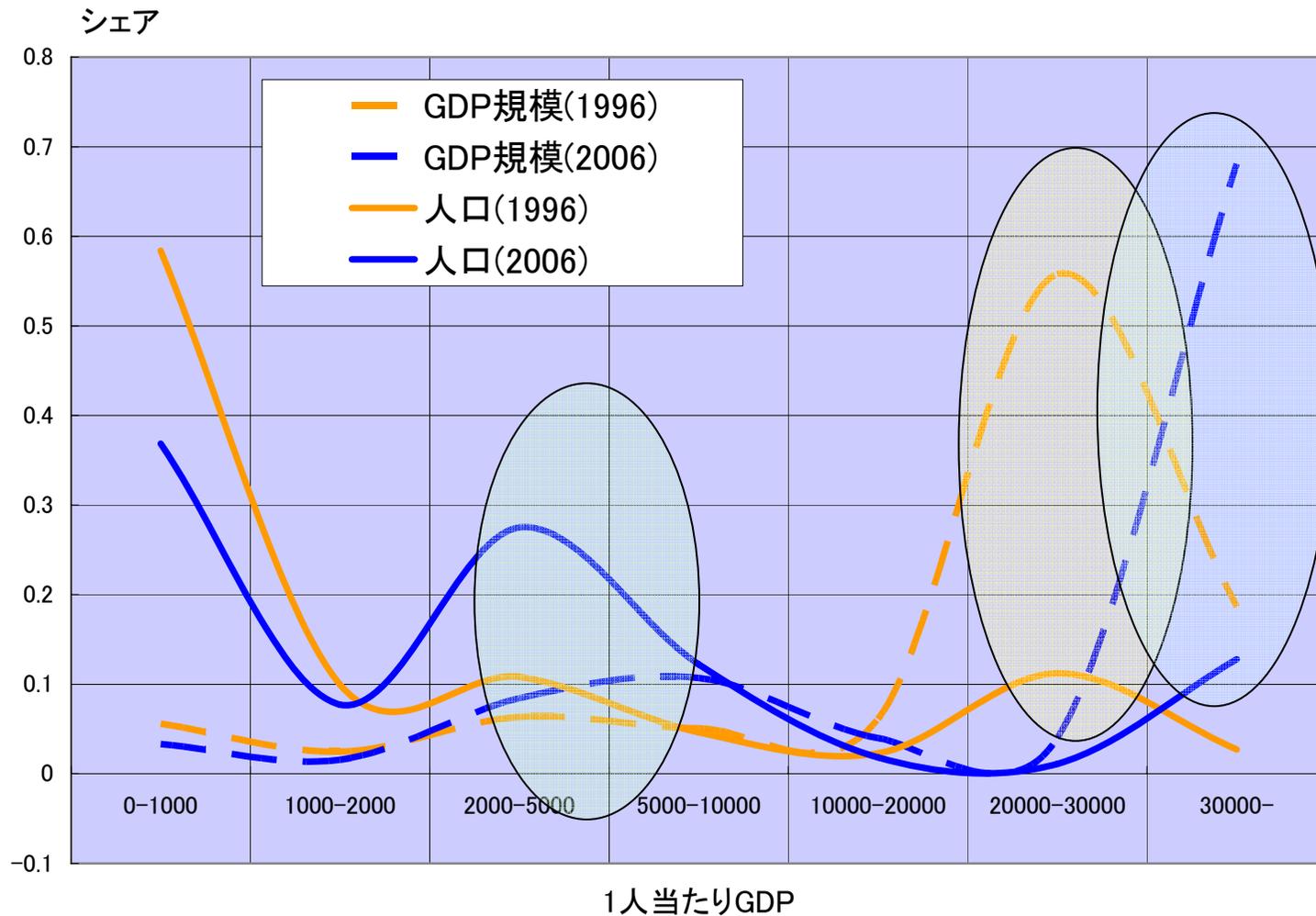
GDPのシェア



市場の多元化: 高所得国市場⇒高所得・中間所得国市場



1人当たりGDPと人口・所得分布



需要変化に対応する成長モデル



- 世界の需要構造の変化
 - 米国の貯蓄投資バランスの是正・高所得国の需要の停滞
 - 需要地域の多様化: アジア(中国・インド)その他(BRICs)の中間所得国の需要拡大
- 東アジアを生産・需要のコアとする成長モデル
 - 「東アジアは生産ネットワーク」「需要は先進国」の成長モデルから「東アジアの需要と生産ネットワークを折り込んだグローバルな成長モデル」へ

「良質な市場」の実現： 需要変化に対応した市場設計



- 「良質な市場」への制度の整備
 - グローバルな自由貿易ルールの共有：WTO新ラウンドの促進
 - 消費者利益を重視する市場制度
 - 市場における取引・契約におけるcontractibilityの重要性：国内法制度の整備・投資ルールの整備
- 世界市場の保護主義化の回避



変化に対応する国際企業戦略

- 多様な所得層に対応した多様な生産形態
 - 需要の多様性(高所得層から中間所得層まで)に対応する財・サービスの供給
- イノベーションによる新財・サービスの創出
 - 急速なキャッチアップに備えた財・サービスの創出
- グローバル市場に対応する日本企業の組織
 - 言語(日本語)intensive な財・サービスの競争力をどのように考えるか